

ニ付、伺之上、爲御褒美、本道壹人ニ付銀拾枚宛、外科眼科壹人に付銀七枚宛、元文元辰年迄は、毎年被下置候得共、左候而は、例格之様ニ相成、如何ニ御座候間、當時は、毎年は不申上候、然共、其年之様子ニ寄、毎年申上候儀も有之、又は隔年にも申上、其節々被下置候儀ニ御座候、右ニ付、藥種料御入用ニ而被下置候儀ニは無御座、御役料之内ニ而辨じ申候儀ニ御座候、右之通御座候、依之先達而御下ダ被遊候御書取壹通奉返上候、以上。

酉十月

初鹿野河内守

〔養生所書留三〕已<sup>二〇</sup>弘化 十月十六日、山中仲兵衛を以御渡、

養生所病人共<sup>江</sup>助力錢申立候もの之儀ニ付、相伺候書付、

養生所見廻

小傳馬町三丁目清助店

茂兵衛

右之もの儀、虱うせ藥商賣仕候ニ付、爲冥加、先年申立候上、右賣藥を、病人共<sup>江</sup>爲施藥、毎年十月より三月迄、月々百貳拾貝ヅ、養生所<sup>江</sup>差出、爲相用來候處、猶又當年は、右之外ニ、病人壹人ニ付、錢貳百文ヅ、助力差遣度由、右茂兵衛より、此節申立候、依之取調候處、是迄右之振合ニ而、半紙貳帖ヅ、差遣度由申立候ニ付、私共猥リニ受置候儀も御座候得共、此度は、錢貳百文ヅ、差遣度と申立候儀ニ而候得ば、私共猥リニ難承置、評議仕候處、右體助力差遣候迎も、取縮に拘り申候儀も無之、且爲冥加差遣度と申立候儀、奇特之儀ニも御座候得ば、申立候通、聞濟置候様可仕候哉、依之此段奉伺候、以上。

巳十月

松浦彌右衛門

村井專右衛門略○中